

平成 25 年 アジア8地域・訪日外国人旅行者の意向調査(南九州版)

～国・地域の多様化へ向け中期的視点で東南アジアの開拓強化を～

2014年4月



株式会社日本政策投資銀行

南九州支店

1. 南九州におけるインバウンド観光の動向

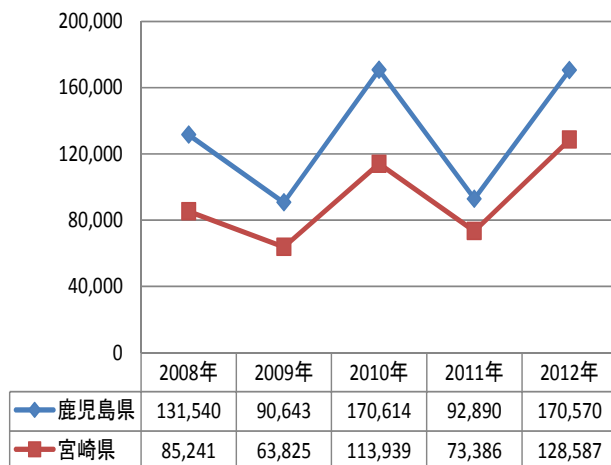
観光産業は、南九州地域にとって重要産業であるが、国内人口減少や高齢化に直面していることから、今後大きな伸びが期待できる外国人観光客の誘致がその活性化のためには重要となる。

2012年の外国人延宿泊者数をみると、東日本大震災の悪影響の低下、さらには鹿児島・台湾間の直行便就航や新幹線全線開通効果もあり回復している（図表1）。

一方、南九州を訪れている外国人の国籍をみると、韓国及び台湾2国が占めるウエイトは鹿児島県が66%、宮崎県が89%と高くなっており、両国の訪日観光動向が大きな影響を与える状況にある（図表2）。

したがって、外国観光客数の拡大とともにその安定性向上に向けて国・地域の多様化を図っていくことが今後の課題と考えられる。

図表1 外国人延宿泊者数の推移

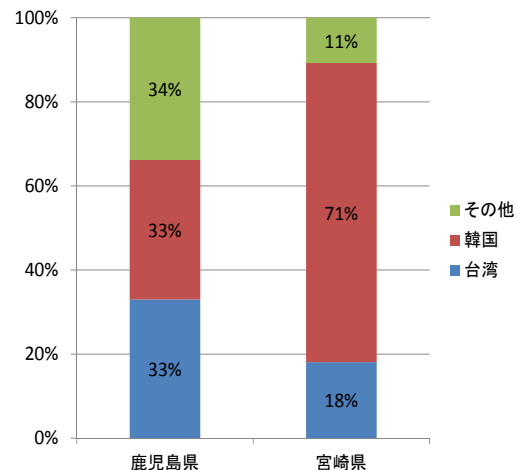


（資料）鹿児島県観光統計、宮崎県観光入込客統計調査より作成。

（注1）鹿児島県観光統計は2010年迄鹿児島県の独自調査であり、2011年からは観光庁「宿泊旅行統計」を使用。

（注2）宮崎県観光入込客統計調査のサンプル数は2008年121店舗、2009年225店舗、2010年289店舗、2011年331店舗、2012年359店舗。

図表2 国籍別の割合（2012年）



（資料）宿泊旅行統計より作成。従業員10人以上のホテル。

一方、全国の動向をみると、円安や観光立国の実現に向けた取り組み成果などもあり、2013年12月20日には訪日外国人旅行者数が史上初めて1000万人に到達した。日本政府観光局（JNTO）の発表資料で2013年の国・地域別動向をみると、中国を除く17市場が前年を上回っている（図表3）。とりわけ、7月1日からのビザ緩和を実施（注）した東南アジア諸国はその効果が大きく、タイ、マレーシアを中心に非常に高い伸びを示している（図表4）。

図表3 国・地域別訪日外客数の推計値

	2013年1月～12月 (人数)	構成比	対前年伸率
総数	10,363,900	100.0%	24.0%
韓国	2,456,100	23.7%	20.2%
中国	1,314,500	12.7%	▲7.8%
台湾	2,210,800	21.3%	50.8%
香港	745,800	7.2%	54.8%
タイ	453,600	4.4%	74.0%
シンガポール	189,200	1.8%	33.1%
マレーシア	176,500	1.7%	35.6%
インドネシア	136,800	1.3%	34.8%
フィリピン	108,300	1.0%	27.4%
ベトナム	84,400	0.8%	53.0%
インド	75,000	0.7%	8.8%
豪州	244,600	2.4%	18.5%
米国	799,200	7.7%	11.5%
カナダ	152,800	1.5%	12.9%
英国	191,900	1.9%	10.3%
フランス	154,900	1.5%	18.8%
ドイツ	121,800	1.2%	11.8%
ロシア	60,500	0.6%	20.6%
その他	687,200	6.6%	19.0%

(資料) 日本政府観光局 (JNTO) 発表資料より作成

図表4 国・地域別訪日外客数伸び率 (2013年7月～12月)

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	7～12月累計
総数	18.4%	17.1%	31.7%	31.5%	29.5%	25.4%	25.1%
タイ	84.7%	101.9%	55.9%	93.4%	111.2%	119.0%	96.0%
シンガポール	34.1%	50.4%	44.7%	57.3%	35.2%	38.8%	41.6%
マレーシア	25.6%	41.6%	23.7%	57.0%	72.7%	65.5%	52.7%
インドネシア	4.0%	29.8%	8.7%	21.8%	43.3%	27.3%	23.4%
フィリピン	12.5%	14.5%	17.5%	31.5%	26.9%	50.1%	26.6%
ベトナム	59.7%	46.4%	31.4%	80.0%	52.6%	45.7%	53.9%

(資料) 日本政府観光局 (JNTO) 発表資料より作成

したがって、南九州が国・地域の多様化を図っていく上では、これまで取り組まれてきた中国とともに、東南アジア地域も中期的観点から観光客の呼び込みを強化すべき国・地域として位置づけて誘致活動に取り組むべきと考えられる。

(注) タイとマレーシアからの訪日客はビザ取得を不要にしたほか、フィリピンやベトナムの観光客は期限内に何度でも入国できる数次ビザを新たに発給。数次ビザを発給しているインドネシアも滞在できる日数を最長15日間から30日に延長。

2. アジア 8 地域・訪日外国人旅行者の意向調査結果

当行では、昨年に続き、2013 年 10 月にアジア 8 地域の海外旅行経験者を対象としたインターネットによるアンケートを実施した。ここでは、外国観光客数の拡大とともにその安定性向上に向けて国・地域の多様化を図るという課題解決に向けた取り組みを行っていく上で、参考となると思われる情報を抜粋・分析を行った。

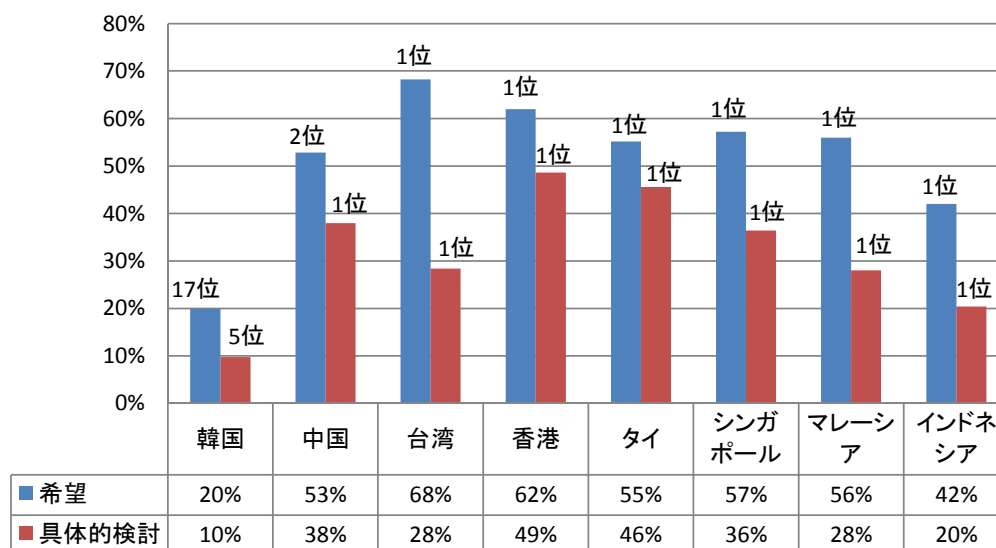
これらの情報が、南九州の観光振興に向けた議論や取り組みの一助になれば幸いである。

(1) 日本旅行の人気度

今後、旅行したい国・地域として日本の人気はトップクラスであり、具体的に日本旅行を検討されている割合も高い(図表 5)。東南アジアの国々(タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア; 以下同じ)においても日本は一番人気となっており、南九州が国・地域の多様化を図るという観点から注目すべきエリアと考えられる。

また、現在、関係悪化等を背景に観光客が減少している中国でも日本は 2 番人気となっており、潜在的には観光客の増加が期待できる重要な国として継続的に取り組んでいく必要があろう。

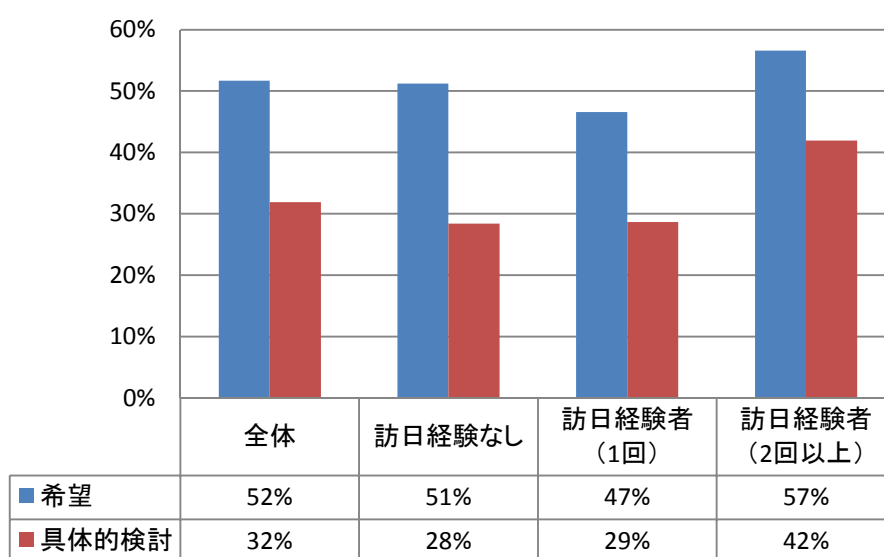
図表 5 日本旅行への希望と具体的検討状況(対象は全員)



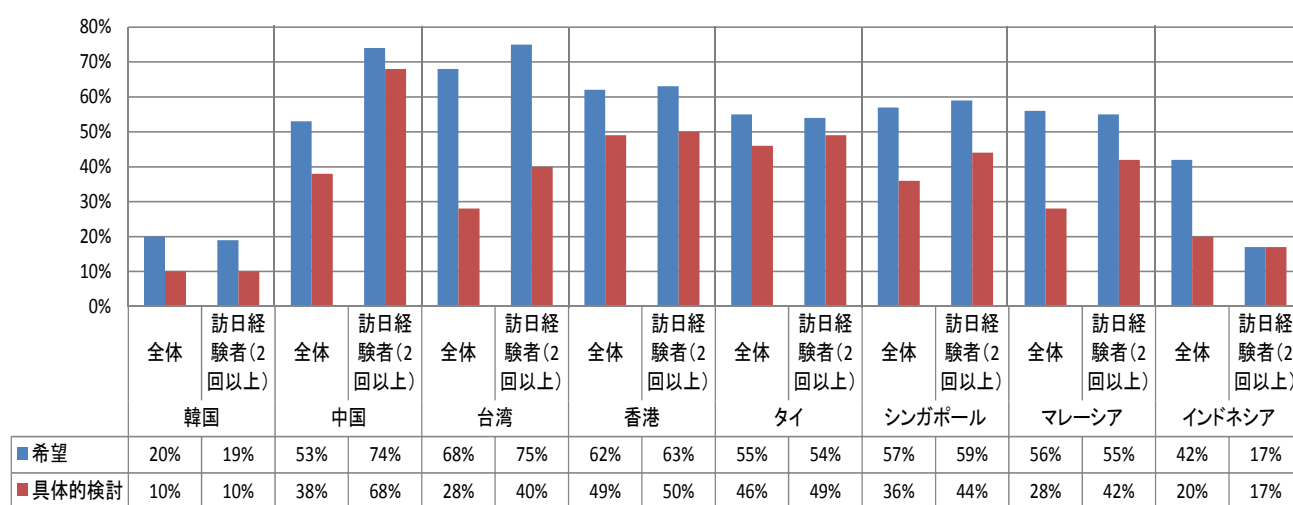
(注) 旅行したい「国や地域」に関し、32 の選択肢を用意。グラフ内の順位は日本の順位。

これを訪日経験別にみると、訪日リピーターになると、日本旅行への希望が高まり、日本旅行を具体的に検討している人の割合も高まる傾向があることが分かった(図表 6)。

図表6 訪日経験別にみた日本旅行への希望と具体的検討状況（対象は全員）



図表7 居住地、訪日経験別にみた日本旅行への希望と具体的検討状況（対象は全員）



（２）南九州の認知度と観光意欲

まず、南九州の認知度をみると、中国、台湾、香港では４割を超えるなど高い認知度となっている（図表８）。

一方、東南アジアの国々では認知度がまだ低い状況にある。但し、訪日経験が２回以上あるタイ、シンガポール、マレーシアの訪日リピーターではその割合は上昇し概ね２割以上となっている（図表９）。

図表８ 南九州の認知度（対象は全員）

	全体	韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア
サンプル数	4000	500	500	500	500	500	500	500	500
宮崎	26%	24%	45%	47%	47%	16%	9%	13%	5%
鹿児島	30%	30%	47%	65%	65%	6%	9%	9%	9%

（注）「これらの観光地をご存じですか？」との質問で、各観光地に関して「はい」と答えた人の割合

図表９ 訪日経験別にみた南九州の認知度（対象は全員）

回答者→ 訪日経験→	全体			韓国			中国			台湾			香港			タイ			シンガポール			マレーシア			インドネシア		
	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上
サンプル数	2202	782	1016	202	114	184	228	125	147	176	127	197	130	116	254	322	102	76	303	100	97	409	53	38	432	45	23
宮崎	17%	26%	44%	18%	15%	35%	37%	49%	55%	43%	38%	56%	45%	34%	54%	11%	23%	32%	5%	7%	24%	13%	11%	18%	5%	9%	4%
鹿児島	18%	33%	54%	20%	22%	45%	36%	50%	60%	58%	63%	74%	60%	56%	72%	2%	7%	22%	6%	5%	23%	7%	21%	16%	8%	11%	13%

（注）「これらの観光地をご存じですか？」との質問で、各観光地に関して「はい」と答えた人の割合

次に、南九州への観光意欲をみると、中国、台湾、香港では相応の水準にある。一方、東南アジアの国々では１桁台と低い状況にある（図表１０）。

訪日経験別では、訪日経験が増すと南九州への観光意欲が高まる傾向がある。但し、中国、台湾、香港では大きな差がないものの、東南アジアの国々の訪日リピーターの南九州への観光意欲は福岡／博多、長崎に比べ低い傾向にある（図表１１）。

図表１０ 南九州への観光意欲（対象は全員）

	全体	韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア
サンプル数	3787	466	495	485	491	477	456	460	457
宮崎	7%	4%	13%	14%	10%	6%	4%	4%	1%
鹿児島	11%	5%	17%	30%	27%	2%	4%	3%	3%

（注）「知っている観光地の中でどこへ行きたいですか？」との質問で各観光地に○をした人の割合

図表 1 1 訪日経験別にみた南九州への観光意欲（対象は全員）

回答者→ 訪日経験→	全体			韓国			中国			台湾			香港			タイ			シンガポール			マレーシア			インドネシア		
	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上
サンプル数	2006	766	1015	171	112	183	223	125	147	166	122	197	122	115	254	303	98	76	261	98	97	371	51	38	389	45	23
福岡／博多	7%	10%	20%	12%	14%	20%	4%	10%	19%	13%	18%	29%	7%	5%	17%	10%	14%	24%	2%	5%	21%	6%	6%	3%	4%	2%	9%
長崎	10%	14%	19%	4%	14%	18%	7%	18%	24%	18%	17%	25%	8%	7%	16%	14%	16%	21%	6%	5%	19%	8%	8%	8%	15%	24%	13%
宮崎	3%	8%	14%	1%	4%	7%	5%	16%	22%	8%	11%	20%	7%	5%	13%	2%	10%	16%	2%	2%	10%	3%	4%	11%	1%	2%	0%
鹿児島	5%	13%	22%	2%	6%	7%	8%	22%	26%	23%	27%	37%	19%	22%	33%	1%	1%	8%	2%	2%	9%	2%	6%	3%	2%	9%	4%

（注）「知っている観光地の中でどこへ行きたいですか？」との質問で各観光地に○をした人の割合

但し、南九州を知っている人の観光意欲という点からみると、東南アジアの国々の状況は中国、台湾、香港と大きな差はない（図表 1 2）。

したがって、東南アジアの開拓にあたっては、南九州の魅力を丁寧に伝えていくことで認知度を高めていくことがスタートとなろう。

図表 1 2 南九州を知っている人の南九州への観光意欲

	全体	韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア
宮崎	26%	17%	28%	29%	20%	35%	36%	25%	15%
鹿児島	36%	16%	35%	44%	40%	29%	36%	28%	28%

(3) 日本旅行に関する嗜好ときっかけ

まず、訪日経験者に日本に旅行した理由をきくと、「日本食」、「景観」、「温泉」、「文化・歴史」の4項目が日本旅行を選ぶ決め手となっている（図表13）。今後、日本旅行をしたいと考えたきっかけの回答についても状況は変わらない（図表14）。

また、日本旅行希望者に日本旅行で体験したいことを確認したところ、日本料理等を食べること、自然や風景の見物が体験したいことの双壁であり、このほか温泉などの保養・休養、有名な史跡や歴史的な建造物の見物に対する関心が高い（図表15）。

東南アジアの国々についても、これらの基本的なニーズには大きな違いはない。

図表13 日本旅行を選んだ理由（対象は訪日経験者、複数回答）

回答者→ 理由\訪日経験	全体		韓国		中国		台湾		香港		タイ		シンガポール		マレーシア		インドネシア	
	1回	2回以上	1回	2回以上	1回	2回以上	1回	2回以上	1回	2回以上	1回	2回以上	1回	2回以上	1回	2回以上	1回	2回以上
サンプル数	782	1016	114	184	125	147	127	197	116	254	102	76	100	97	53	38	45	23
日本食に関心があったから	51%	58%	20%	36%	54%	62%	47%	55%	60%	69%	67%	75%	49%	62%	49%	58%	84%	43%
日本の景観に関心があったから	55%	55%	20%	25%	66%	64%	53%	61%	49%	57%	79%	74%	52%	54%	64%	74%	71%	74%
日本の温泉に関心があったから	45%	47%	34%	43%	66%	59%	44%	43%	41%	51%	54%	54%	36%	40%	40%	34%	33%	39%
日本の文化・歴史に関心があったから	47%	45%	19%	32%	54%	52%	44%	51%	34%	36%	67%	64%	50%	42%	60%	61%	78%	83%
治安が良いから	31%	40%	11%	23%	30%	33%	39%	59%	28%	38%	50%	54%	27%	39%	40%	42%	33%	26%
日本でのショッピングに関心があったから	27%	35%	8%	23%	29%	41%	30%	36%	35%	43%	40%	42%	14%	29%	30%	32%	36%	26%
日本のファッション・ゲーム・音楽に関心があったから	27%	31%	12%	18%	34%	44%	24%	30%	36%	34%	29%	30%	15%	22%	32%	39%	42%	35%
日本の科学・技術に関心があったから	24%	24%	4%	10%	32%	46%	14%	16%	22%	23%	41%	41%	10%	8%	42%	26%	53%	78%
友人・知人の勧めがあったから	26%	19%	24%	15%	30%	26%	29%	14%	20%	16%	24%	30%	18%	16%	34%	21%	36%	35%
渡航時間が短かったから	16%	24%	23%	35%	17%	16%	14%	28%	16%	20%	19%	25%	6%	15%	17%	21%	11%	17%

（注1）この質問は訪日経験者を対象に、旅行先として日本を選んだ理由を尋ねたものである。

（注2）上位5項目については赤または黄色で塗りつぶしを行った。

図表 1 4 (将来) 日本旅行をしたいと考えたきっかけ (対象は日本旅行希望者)

回答者→ 理由\訪日経験	全体		韓国		中国		台湾		香港		タイ		シンガポール		マレーシア		インドネシア	
	なし	有り	なし	有り	なし	有り	なし	有り	なし	有り	なし	有り	なし	有り	なし	有り	なし	有り
サンプル数	1128	939	46	54	91	173	114	227	82	228	185	91	173	113	234	46	203	7
日本食に関心があるから	65%	71%	35%	54%	56%	67%	64%	66%	73%	78%	72%	76%	66%	74%	64%	76%	64%	86%
日本の景観に関心があるから	77%	71%	52%	56%	78%	75%	64%	71%	66%	69%	83%	71%	77%	71%	82%	80%	84%	71%
日本の温泉に関心があるから	63%	62%	65%	65%	75%	64%	61%	62%	62%	62%	64%	66%	58%	58%	67%	61%	56%	57%
日本の文化・歴史に関心があるから	60%	59%	33%	48%	45%	63%	48%	61%	39%	47%	69%	80%	58%	56%	64%	65%	78%	86%
治安が良いから	37%	51%	30%	44%	37%	31%	43%	64%	24%	47%	41%	66%	32%	51%	45%	52%	30%	43%
日本でのショッピングに関心があるから	37%	43%	20%	35%	47%	43%	43%	46%	40%	51%	43%	44%	24%	28%	37%	35%	38%	43%
日本のファッション・ゲーム・音楽に関心があるから	37%	40%	11%	35%	37%	48%	39%	39%	29%	42%	40%	40%	29%	31%	41%	35%	43%	57%
日本の科学・技術に関心があるから	41%	30%	9%	20%	26%	39%	19%	17%	23%	30%	53%	49%	27%	21%	51%	59%	65%	57%
友人・知人の勧めがあるから	25%	24%	17%	22%	44%	28%	19%	22%	23%	20%	22%	30%	25%	19%	26%	28%	25%	29%
渡航時間が短いから	16%	27%	41%	57%	33%	16%	22%	37%	16%	24%	23%	29%	8%	12%	8%	24%	10%	29%

(注 1) この質問は訪日経験者を対象に、旅行先として日本を選んだ理由を尋ねたものである。

(注 2) 上位 5 項目については赤または黄色で塗りつぶしを行った。

図表 1 5 (将来) 日本旅行で体験したいこと (対象は日本旅行希望者)

回答者→ 訪日経験→	全体		韓国		中国		台湾		香港		タイ		シンガポール		マレーシア		インドネシア	
	なし	有り	なし	有り	なし	有り	なし	有り	なし	有り	なし	有り	なし	有り	なし	有り	なし	有り
サンプル数	1128	939	46	54	91	173	114	227	82	228	185	91	173	113	234	46	203	7
自然や風景の見物	78%	75%	61%	74%	84%	72%	73%	79%	78%	72%	74%	66%	84%	81%	84%	78%	76%	71%
日本料理を食べる	75%	78%	76%	81%	78%	72%	70%	81%	73%	76%	67%	73%	77%	82%	78%	87%	81%	86%
リーズナブルで清潔な施設での宿泊	73%	64%	74%	70%	57%	37%	68%	76%	72%	63%	76%	70%	72%	72%	79%	74%	73%	71%
安くておいしい料理を食べる	70%	67%	61%	69%	59%	39%	61%	78%	70%	68%	72%	69%	74%	79%	74%	74%	72%	100%
温泉への入浴	66%	60%	76%	69%	73%	51%	65%	68%	65%	59%	65%	58%	66%	59%	70%	59%	60%	71%
自分の好物を食べる	56%	69%	50%	56%	69%	60%	60%	75%	70%	76%	57%	69%	53%	65%	53%	63%	48%	71%
有名な史跡や歴史的な建築物の見物	63%	58%	59%	63%	62%	51%	48%	62%	54%	56%	61%	59%	66%	61%	66%	67%	73%	43%
のんびりと保養・休養	61%	59%	54%	46%	38%	34%	68%	72%	63%	64%	66%	64%	69%	67%	51%	61%	69%	71%
日本旅館での宿泊	59%	58%	52%	54%	64%	50%	53%	61%	51%	54%	55%	60%	61%	67%	59%	61%	69%	71%
雪景色鑑賞	60%	52%	43%	46%	60%	41%	53%	59%	55%	54%	58%	51%	67%	53%	62%	65%	62%	57%

(注 1) この質問は日本旅行希望者を対象に、日本旅行で体験したいことを尋ねたものである。

(注 2) 上位 5 項目については濃い赤又は濃い黄色、上位 6～10 項目については薄い赤又は薄い黄色で塗りつぶしを行った。

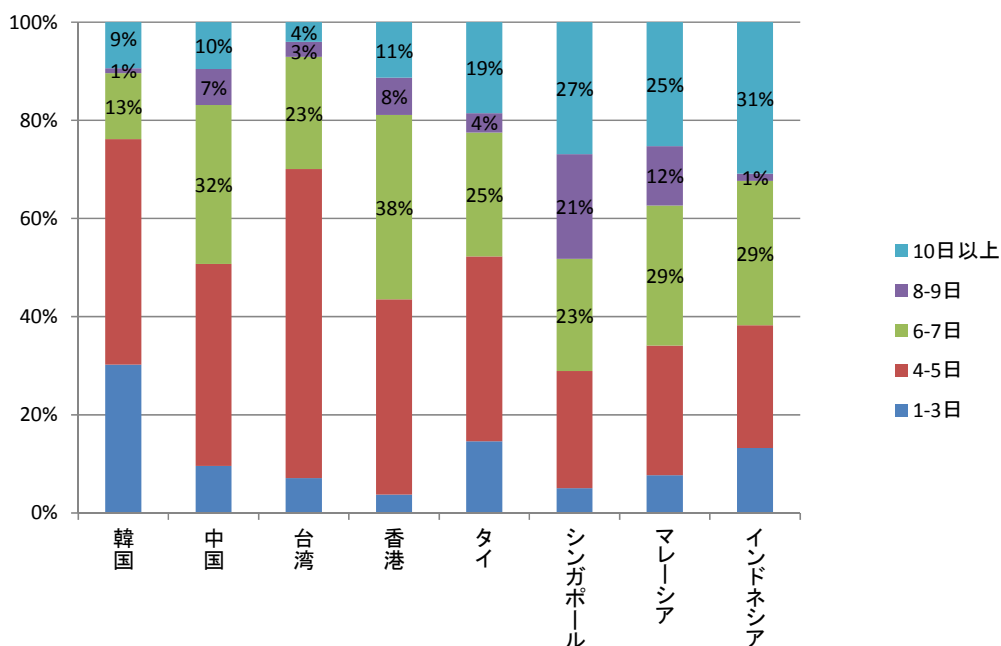
（４）日本旅行の滞在日数

訪日経験者について直近の日本旅行での平均滞在日数をみると、日本からの距離に応じて長くなる傾向があり、東南アジアの国々では、6 日以上との比率が高くなっており、10 日以上との回答も 2 ～ 3 割を占めている（図表 1 6）。

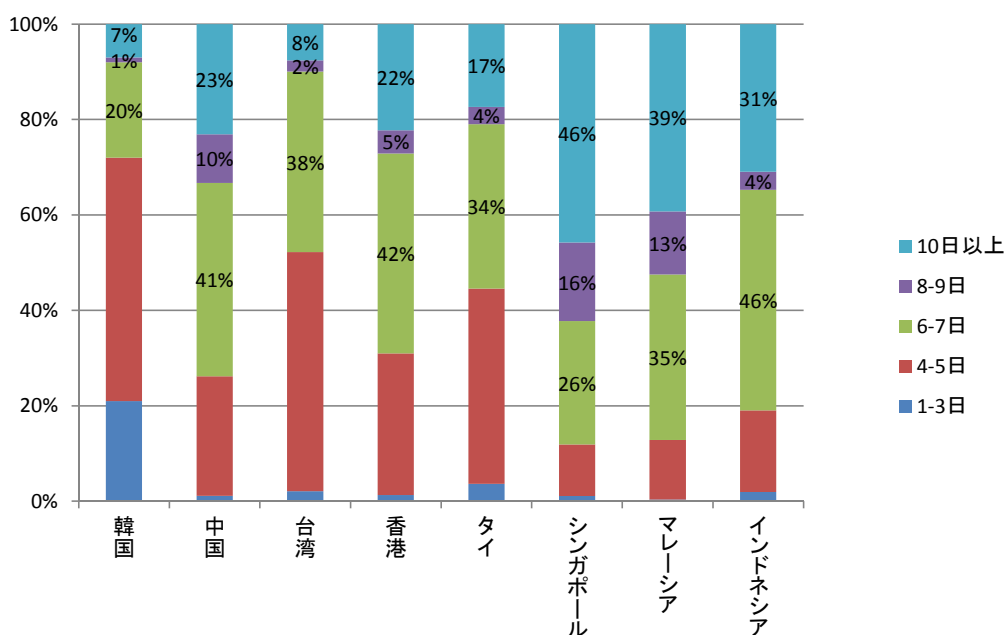
さらに、日本旅行希望者に日本旅行の滞在日数の希望を確認したところ、より滞在期間の長い日本旅行を希望する傾向がみられた（図表 1 7）。

当地で現在大きなシェアとなっている韓国、台湾などに比べ、東南アジアの国々では、他地域と連携した周遊観光実現の可能性が高いと考えられる。

図表 1 6 日本旅行の滞在日数と滞在箇所（対象は訪日経験者）



図表 1 7 希望する日本旅行の滞在日数（対象は日本旅行希望者）



3. 今後の取り組みへの示唆

最後に、南九州が外国観光客数の拡大とともにその安定性向上に向けて国・地域の多様化を図るという課題に取り組んでいく上での示唆をアンケート結果からまとめた。

旅行者の目線に立った観光資源の売り込み

第一は、国・地域の多様化を図っていく上では、新たにターゲットとする地域のニーズ・嗜好などの市場特性を十分に理解し、旅行者の目線に立った観光資源の売り込みを図っていくことが必要ということである。東南アジアの国々では南九州の認知度や訪問意欲はまだ低いため、南九州の魅力を丁寧に伝えていくことが出発点となるからだ。

和食がユネスコ無形文化遺産に登録されたことや、東南アジアの国々でも日本の食には大きな関心を持たれていることを踏まえると、食の魅力を伝えていくことは重要である。但し、ハラル商品が求められるイスラム圏であるマレーシアやインドネシア向けには黒豚や地鶏の写真を使ったプロモーションは望ましくないだろう。実際、これらの国では「食べ物が合わない」ことへの回答が日本旅行への不安として比較的高くなっているからだ（図表18）。

図表18 日本旅行への不安材料（対象は全員）

回答者→ 訪日経験→	全体			韓国			中国			台湾			香港			タイ			シンガポール			マレーシア			インドネシア		
	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上
サンプル数	2202	782	1016	202	114	184	228	125	147	176	127	197	130	116	254	322	102	76	303	100	97	409	53	38	432	45	23
食べ物が合わない	17%	12%	8%	10%	12%	5%	15%	22%	18%	16%	8%	10%	4%	5%	4%	14%	11%	5%	9%	4%	6%	21%	23%	8%	32%	24%	26%

（参考）

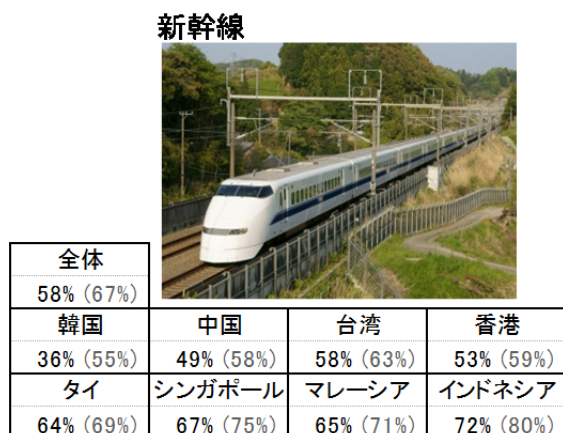
言葉が通じるかどうか不安	61%	53%	45%	34%	34%	29%	47%	50%	39%	58%	58%	45%	67%	67%	59%	65%	46%	38%	64%	61%	47%	73%	51%	45%	62%	53%	48%
滞在費(現地での費用)が高い	59%	49%	40%	50%	46%	46%	33%	26%	14%	54%	49%	48%	44%	44%	30%	66%	60%	64%	67%	61%	53%	67%	60%	47%	65%	60%	57%
渡航費用が高い	54%	42%	35%	27%	25%	22%	29%	26%	19%	55%	45%	53%	47%	37%	31%	40%	44%	38%	70%	58%	49%	70%	68%	50%	68%	62%	43%
放射能による健康被害が心配	41%	43%	47%	76%	65%	70%	53%	36%	30%	45%	48%	44%	65%	53%	56%	26%	18%	24%	39%	40%	45%	40%	40%	29%	26%	29%	30%
地震が起こるかどうか心配	38%	36%	37%	54%	44%	46%	42%	30%	29%	22%	28%	24%	48%	47%	47%	30%	24%	33%	38%	38%	41%	42%	40%	24%	35%	51%	52%

他地域との連携したプロモーションの実施

第二は、東南アジアのように新たにターゲットとする国・地域へのプロモーションを行う場合には、知名度・認知度向上への取り組みとともに、既に知名度や訪問意欲が高いエリアの自治体や事業者と連携したプロモーションの可能性を模索すべきということである。

既にみたように日本旅行の滞在日数をみると、日本からの距離に応じて長くなる傾向があり、東南アジアの国々の場合、6日以上が主体となっている。また、新幹線の人気も高い（図表19）。このため、新幹線や格安航空等でルート化できる福岡／博多、長崎、さらには大阪などと違う魅力を打ち出しながら連携したプロモーションを行うことも有効ではなかろうか。

図表 1 9 新幹線体験への憧れ（行ってみたい日本の観光地イメージ）



（注）対象は全員。うちカッコ内の数値は、日本旅行希望者が対象。

海外事業展開支援との相互情報交換の促進

現在、企業の海外事業展開においても東南アジアへの関心が高まっている。例えば、国際協力銀行のアンケートによれば、中期的事業展開有望先として考える上位5カ国にインドネシア、タイ、ベトナムが入っている。有望としている理由の一位は、「現地マーケットの今後の成長性」である。

海外事業展開、インバウンド誘致の双方において現地国民のニーズ把握が重要なことに変わりがない。そこで、現地ニーズの情報提供に関しては両支援事業の実質的な一体化を図るとともに、関連事業者間で情報交換の場を設けるなど相互に情報交換の促進を図っていくことが有効と考えられる。

図表 2 0 中期的（今後3年程度）有望事業展開先国・地域（複数回答）

2013年		
順位	国・地域名	得票率(%)
1	インドネシア	44.9
2	インド	43.6
3	タイ	38.5
4	中国	37.5
5	ベトナム	30.3
11	フィリピン	8.0
12	マレーシア	7.6
16	シンガポール	3.9

（資料）国際協力銀行「わが国製造企業の海外事業展開に関する調査報告書（2013年度）」より作成

訪日リピーターを重点ターゲットに

最後に、訪日リピーターを重点ターゲットとすることが有効ということである。なぜなら、訪日リピーターの方が訪日経験のない人等より日本旅行への希望や実際の意欲が高く、南九州に対する認知度や観光意欲も同様な結果であるためだ。

(参考) アンケート調査の概要・回答者属性

- 調査方法：インターネットによる調査
- 実施時期：2013 年 10 月 8 日～2013 年 10 月 25 日
- 調査地域：韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア
- 調査対象者：20 歳～59 歳の男女、かつ、海外旅行経験者
(中国-香港-マカオ間の旅行とマレーシア-シンガポール間、タイ-マレーシア間の旅行については、海外旅行経験から除く)
- 有効回答数：上記各地域に居住する住民各 500 人、計 4,000 人
(中国は北京及び上海各 250 人ずつ)

◆有効回答数

	韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア
男性	268	232	217	236	247	244	280	249
女性	232	268	283	264	253	256	220	251
回答者数	500	500	500	500	500	500	500	500

◆訪日経験

	韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア
訪日経験なし	202	228	176	130	322	303	409	432
訪日経験者 (1回)	114	125	127	116	102	100	53	45
訪日経験者 (2回以上)	184	147	197	254	76	97	38	23
総計	500	500	500	500	500	500	500	500

- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：日本政策投資銀行と明記して下さい。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡下さい。
- 本資料の分析内容・意見に関わる箇所は、筆者個人に帰するものであり、株式会社日本政策投資銀行の公式見解ではありません。

(お問い合わせ先)

株式会社日本政策投資銀行南九州支店 企画調査課 (担当：紀^{きの}、花田)

〒892-0842 鹿児島市東千石町 1 番 38 号 TEL：099-226-2666